

追悼 里見先生の思い出

[JEF第2代理事長の里見光徳先生が令和6年5月22日に逝去されました。享年91歳です。]

私と里見先生の出会いは、私が高3の時に遡りますので56年も前です。たぶん東京都高体連総会の時でしょう。壇上の先生が「審判検定があるが、受けてみましょう」と、出席者に呼び掛けていました。受ければ手帳が届く、受からなければお金は返す（認定料のことだと思います）、ということなので受検しました。が、どちらも連絡がなく卒業が迫ってきました。そこで、その先生に電話をしました。その先生が里見先生だったのです。都立小石川工業高等学校にお勤めでした。知らない高校生からの電話なので、びっくりされたでしょうね。それでも丁寧に「都協会の事務所に手帳が届いているから取りに行きなさい」と教えてくれました。

その後、教員となり高体連のお手伝いをするようになってからも、里見先生には随分お世話になりました。こちらは一人前のつもりなので、かなり生意気なことを言っていたと思います。

私がJEF理事長になったときには「リーダーは先の姿を見せなければいけない」と教えていただきました。私の理事長時代に行った事業のうちに総合優勝制度と『バドミントン100問集』の発行があります。総合優勝制度は里見先生の発案でした。各支部連盟が積極的に会員を増やすきっかけとして、JEF大会参加者を増やし活性化することが目標です。『バドミントン100問集』は私が理事長になる前から内容を見直して、改訂作業を行っていました。タイミングを見計らって『バドミントン100問集2000年版』、続けて『バドミントン100問集2001年版』と出したのですが、そもそもの改訂の発案は里見先生ではないかと推察します。



後列右から 4 人目



ジュニア・ユースチームの海外遠征を引率
(1988年 香港啓徳空港)

写真提供：里見徳子様

里見先生のお話の中で印象に残っているものの一つに「ラケットは1本だけ」があります。「一人で2本持って試合をしてはいけない、なぜなら国際連盟のルールブックには“Racket”と単数形で書かれている」ということでした。IBF（当時）のthe LAWS of Badminton を原文で読まれていたのです。



JEF50周年式典にて

里見先生が持っている公認審判員番号は2番。本当は1番を狙っていたのに、と大変悔しがっていました。日本で初めて公認審判員資格を取得したお一人です。

里見先生のJEF創立へ向けた様々な動きは連盟ホームページの「連盟の歩み」に詳しく書かれています。JEF 創立前夜の動きは興味深いものがあり、また先生の創立にかける情熱が伝わってきます。是非読んでいただきたいと思います。

JEF大会に第1回から40回以上連続で参加していたのは里見先生だけです。しかも役員として。そこで40回大会で特別表彰をしました。

今後も里見先生の想いが語り継がれることを願い、この稿を閉じることにします。合掌

文責：稲石 一雄



平成14年 第41回栃木大会にて



平成17年 第44回山梨大会
東京都が総合優勝